

平成29年度 大阪府立芦間高等学校 第2回 学校協議会

日時 平成29年11月18日(土) 午前1時15分～午後5時
場所 体育館、視聴覚室、校長室

構成員 <協議会委員>
笹山 幸子 元府立高等学校長
藤村 幸博 P T A会長
藤田 俊和 後援会会長
松本 紀容子 守口市立八雲中学校 校長
宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員
山崎 裕也 スクールI E (学習塾) 京阪エリアマネージャー
<事務局>
東崎 浩 教頭
久森 雅代 事務長
甲斐 徹 首席 兼 情報部長
辻 真人 首席 兼 総務文化部長
塩崎 靖子 指導教諭 兼 教務主任
斉藤 衛 生徒指導主事
諸木 忠治 進路指導主事
丸山 清美 保健主事
角山 愉紀雄 第1学年主任
平尾 映子 第2学年主任
岸本千都子 第3学年主任
水嶋 育美 支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長
萩原 英治 校長

配付資料 ○平成29年度 第1回学校協議会議事録
○平成29年度 学校経営計画及び学校評価〔進捗状況記載〕
○学校案内

内 容

- (1) オープンスクール見学
- (2) 校長挨拶
- (3) 報告

- [1] 来年度以降の学校協議会について (変更)
- [2] 平成29年度学校経営計画の進捗状況について

- (4) 保護者説明会見学
- (5) 協議

[1] 平成29年度学校経営計画の進捗状況について

- (委 員) 現在のところ、数値は出てないが、状況はどうか。
- (校 長) 総合学科のため、一人あたりの受け持ち科目の種類が多く忙しい中、ほとんどの教員はよくやっているが、そのために、授業力向上につながらないのではいけないと考えている。生徒については入試制度が変わって入ってきた生徒は今の2年生であるが、3年生と比べると学力幅は狭くなっていて、こじんまりしているように感じる。中学校の進路指導の結果と考えられるが「総合学科だから芦間」というものとは相反する。
- (委 員) 「肯定率が70%を切る授業を減らせる」ということだが、肯定率が低くてもまずくないということもある。本質的な課題を考えたいうえで、授業によって異なる肯定率を考えてもいいのではないか。実験的な授業では肯定率を考えない方がチャレンジしやすい。
- (委 員) 肯定と言う点では生徒たちは自分の学力に見合ったところでほどほどわかる場合に高くなる。意欲を掻き立てるような授業と同じ基準と言うのは総合学科としてい

- かがなものか。生徒の評価をどう見極めるかは大切なこと。
- (校長) 数値が示す表面的なことではなく、それが意味することは何かということですね。
- (委員) 「家庭の学習時間」については時間だけでなく内容も大事になる。「家庭での学習」「授業の予習・復習」「授業で主体的に協働的に学ぼうとしている」「キャリア教育」等との連動性という点はどう考えているか。
- (校長) 「家庭の学習時間」はスタディサポートからの結果からも充実しなければならないと考えているが連動性までは至っていない。
- (委員) ぜひ総合学科ならではのそういった連動性について研究してほしい。
- (委員) 1年生のクラブ加入率が例年より低い要因は何か。
- (校長) 昨年の3年生で大学に合格したがお金がなく就職に変わった生徒がいた。1年主任は、そのことを入学式の際の保護者への話の中で少し触れ、計画的に学費を用意してくれるようお願いした。その影響かどうかはわからないが1年生のアルバイトが多い。アルバイト許可証には「進学のための資金のため」と書かれている。そのあたりに起因することもあるかもしれない。
- (委員) 学校協議会の委員をしている他校でも、同じ理由でアルバイトをしていると聞いている。影響は大きい。
- (委員) 勉強とクラブ活動が両立している学校の方が良いように思う。
- (委員) クラブ加入率と進学率は相関がある。進学特色校は90%を超えている。アルバイトをしながら勉強は本末転倒している。芦間高校の生徒は真面目なのでアルバイトも一生懸命すると思う。
- (委員) 真面目にする子はアルバイト先でも重用され、任される。任されると頑張ってしまうと勉強する時間が無くなる。長い目で見るとやめといたほうが良いように思う。
- (委員) 生徒が「家庭の状況」というと学校としてアルバイトを阻止するのは難しいと思う。アルバイトをすると本当に勉強できなくなるので、その点を強く言ってもらいたい。本当のところどれだけのお金が必要で、3年間で貯めていかなければならないのであればどれだけのことをしなければいけないかということ具体的に示してあげるのがいい。生徒は、最初は、お金を貯めなければいけないということでアルバイトを始めるが、貯めなければいけない以上に稼ぐことで、携帯代など関係のないところで使うようになり、その分勉強する時間が削られる。入学時に必要なお金だけ確保するというふうに丁寧に話をしてあげてほしい。
- (委員) 「いじめの事象」について△となっているが。
- (教頭) ある生徒がからかわれているという情報があり、調査を行った。言われている本人はあまりその意識は無かったが、周りから見ているとそうは見えなかった。ただ、からかいがいじめに発展することもあるのでこの中にいれた。
- (委員) 周りの生徒が良く見てくれていたということは大事なことである。本人が思っていないくても、周りがそう見えるということは言葉が過ぎていると思う。いじめには直接つながらなくても、言葉遣いの指導は必要。
- (委員) 2回も授業を見に行っているようですが。
- (校長) 本来なら50分すべてを見なければいけないが、半分にして2回行き、1回目との変化を見ている。
- (委員) 1回目で努力目標を示していると思いますが、すぐに変えられる部分とそうでない部分がある。
- (校長) 「授業の最初に目標を書く」と言う部分はすぐできるが、「極力、生徒の思考を促してください」と言う部分は難しい。意識して「なんでやと思う？」と聞ける教員とそうでない教員はいる。
- (委員) そこは大事なところなので推進してください。全国的に見ると大阪の中学生の学力は低い。その生徒を関関同立、産近甲龍につなげることは大変なこと。加えて、大阪は貧困もある。与えられた課題を自分たちで調べまとめ、発表するというをしている学校は、していない学校に比べて約20ポイント平均点が高い。そういう意味では、芦間高校で、現在、行っていることは学力につながる。
- (委員) 今日の後援会長の話を先生方に聞いてもらいたい。授業が一方的ではなく会話をしているということは大事なこと。

[2] 第2回オープンスクールについて

- (委員) 生徒ががんばっていてよかった。教頭の話に「自分の色彩で・・・」があったが、せつかなので校歌を流せばいいと思った。
- (委員) 入学式の際に生徒たちが歌ってくれる。
- (委員) オープンスクールでもあればいいと思う。音楽や映像は五感に訴える。雰囲気は伝わる。
- (委員) 初めてオープンスクールを見たが、良かった。
- (委員) 生徒会執行部は良くやっていた。
- (委員) 1回目より挨拶をしてくれる生徒が増えていた。
- (委員) 前に立った生徒が出身中学校を言うのは良かった。

委員の皆さまより、お褒めのことばをいただいた。

(6) 校長挨拶

○第3回は2月上旬を考えている。